

公 開 文 書

研究課題名 (研究番号 736)	NICU入院児の聴覚スクリーニングとしての簡易的聴性定常応答に関する後方視的研究
当院の研究 責任者(所属)	吉松 秀隆(新生児内科)
他の研究機関 および各施設の 研究責任者	なし
本研究の目的	<p>乳児期における聴覚障害の早期発見は、言語、認知、社会性の発達に大きく影響するため極めて重要です。現在、新生児聴覚スクリーニングとして自動聴性脳幹反応(AABR)が標準的に用いられていますが、クリック刺激は主に中～高周波成分で構成されるため、低周波域の聴覚異常を検出する感度には限界があります。特に NICU 入院児は早産や低出生体重、低酸素血症、先天異常、長期人工呼吸など複数のリスク因子を有する高リスク群であり、周波数特異的な聴覚異常が存在しても AABR のみでは見逃される可能性があります。</p> <p>聴性定常応答(ASSR)は、振幅または周波数変調音に対する神経応答を解析することで、低・中・高周波域を個別に評価できる電気生理学的手法です。従来は AABR や耳音響反射(OAE)で異常を認めた場合の診断補助として用いられてきましたが、最近短縮プロトコルである quick ASSR (qASSR)が開発され、乳児におけるスクリーニングへの応用が注目されています。</p> <p>本研究の目的は、NICU 入院児の退院前に AABR と併用して qASSR を実施し、周波数特異的応答異常の特徴、出生体重や臨床因子との関連を明らかにすることです。これにより、従来の AABR 単独では検出困難な低周波異常の早期同定が可能となり、高リスク乳児に対する聴覚スクリーニング精度の向上に寄与することが期待されます。</p>

調査データ 該当期間	2022年2月から2023年3月に出生した、当院NICUに入院した方を対象とします。
研究の方法	電子カルテより対象となる患者さんの診療情報を収集して解析を行います。
個人情報の 取扱い	研究で利用する情報には氏名や住所等の個人を特定し得る情報は含みません。研究成果を論文として発表する場合にも、個人を特定できる情報は一切公表しません。
本研究の資金源 (利益相反)	ありません。
お問い合わせ先	熊本市民病院 新生児内科 吉松 秀隆 電話番号:096-365-1711
備考	なし